

2010年8月6日

災害や犯罪にも役立つ危機管理

関西大学社会安全学部

河田恵昭

災害や犯罪が起こってからでは遅い！

- 災害や犯罪が起こる前に、どれくらい準備しているかによって、被害が決まる。
- 災害や犯罪のことを“他人ごと”と思った瞬間に巻き込まれる。
- まず、知らなければならないことは、奈良県がどのような土地なのかということである。
- 対応能力は、地域力である。

一番大事なこと

- 自助努力によって、自分と家族が巻き込まれない。
- 子供の安全確保は親に責任がある。
- そのためには、災害や犯罪に備えなければならない。
- 何を備えるのかについては、防災や防犯に関する断片的知識でなく、包括的知識が必要である。
- まず、災害や犯罪に遭わないために、わが家の欠点、マイナスは何であることを洗い出して、問題点を家族全員で共有する。

地震に備える

- 「何時でも、何処でも、誰でも」地震に遭う。
- 地震で揺れてもあわてない。
- 2階の方が安全だ。
- 地震の時、一人で、勝手に行動しない。

ゲリラ豪雨、洪水に備える

- 大雨が降ると、小さな川はすぐにあふれる。
- 大雨が降り続けると、夜は外が危ない。
- 平屋の家より、2階建ての方が安全だ。
- 大雨警報が出ている時、地下の駐車場に車を預けないし、車を運転しない。

土砂災害に備える

- 大雨が降り続けているときは、2階で寝起きする。
- 避難する時は、親せきの家に逃げない。
- 大雨が止んでも、半日は危険だ。
- 土砂災害危険情報が出たら、2階に上がる。

その他、知っているのと役に立つ知識

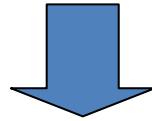
- 竜巻のときは、家の中でじっとしていよう。
- 山で雷が鳴ったら川の水が増える。
- 夕立が来たら、橋の下で雨宿りしない。
- 台風の強い風が吹いているときは、外に出ない。

わが国の最近の災害環境

- **地震**: わかっている活断層約2000, 潜在断層約8000, 地震活動期に突入
- **洪水**: 超過洪水の頻発, 従来の治水対策の限界
- **津波**: 東海・東南海・南海地震による発生を懸念
- **高潮**: 台風特性の変化による超過高潮の発生
- **土砂災害**: 異常降雨による全国的な多発傾向
- **噴火**: 108の活火山が活発な活動開始
- **海岸侵食**: 全国の砂浜, 礫浜海岸の消失
- **都市災害**: 時空間で複合化の様相(首都直下地震)

災害における社会性の増大

従来は社会性は被害に反映されていた



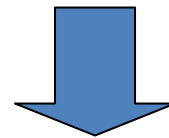
最近では災害の全過程で**社会性**が含まれる

誘因
(外力)



素因
(社会)

被害拡大



被害発生

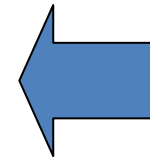
風水害 : 地球温暖化

地震災害 : 予知・予測
技術の未確立

都市化、高齢化、
過疎化、一極集中

災害の危機管理の基本

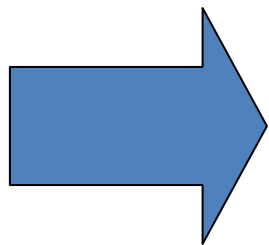
- 災害のメカニズムを知る.
(Knowing hazard)
- 災害に弱いところを知る.
(Knowing vulnerability)
- 災害対策を知る.
(Knowing countermeasures)



この2つを理
解していない
と対策は有効
でなくなる

防災体制の基本

- 自分の命は自分で守る. (自助)
 - まちの安全はみんなを守る. (共助)
 - 地域のインフラ整備を進める. (公助)
-



パートナーシップ

自助 : 共助 : 公助 : 7 : 2 : 1

駿河湾を震源とする地震

- **高齢負傷者の激増と家具の転倒対策の効果**

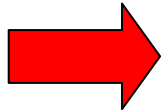
負傷者数/(全・半壊＋一部損壊)棟数の数字に着目

新潟中越沖 : 岩手・宮城内陸 : 岩手県北部 : 駿河湾(静岡)

= 1 : 4.6 : 11.7 : 0.91

高齢化率(%)

= 27 : 23 : 25 : 21



住宅の被災率とは関係していない。地震であわてて逃げようとしてけがをした。2009年の静岡の場合は、家具の固定率62.7%(全国24.3%)の高さが貢献

台風18号の教訓

- 強風で怪我をした人が多い。
- 死者4人、重傷21人、軽傷101人（不注意！）
- 風速25m/sでは瞬間最大38m/s 100mの高層では、32m/sで瞬間最大48m/sになる。
- 風速20m/sでは歩行困難、高齢者は転倒する恐れがある。
- 木の枝が折れ、雨で地盤が緩んでいると木が倒れやすい。
- トタン屋根、瓦、看板、自転車等が飛んでくる。

市民力を高めるために

まず、高槻市が置かれた災害環境を
しっかりと理解しなければならない

1. 2050年までには必ず南海地震が起こる。(震度5強から6弱)。
2. 地球温暖化の影響で淀川や安威川、芥川、水瀬川などが溢れて洪水氾濫が起こる。(淀川洪水:1885, 1917, 1953年(芥川)、
安威川:1967年)

河川の流量

都市化以後

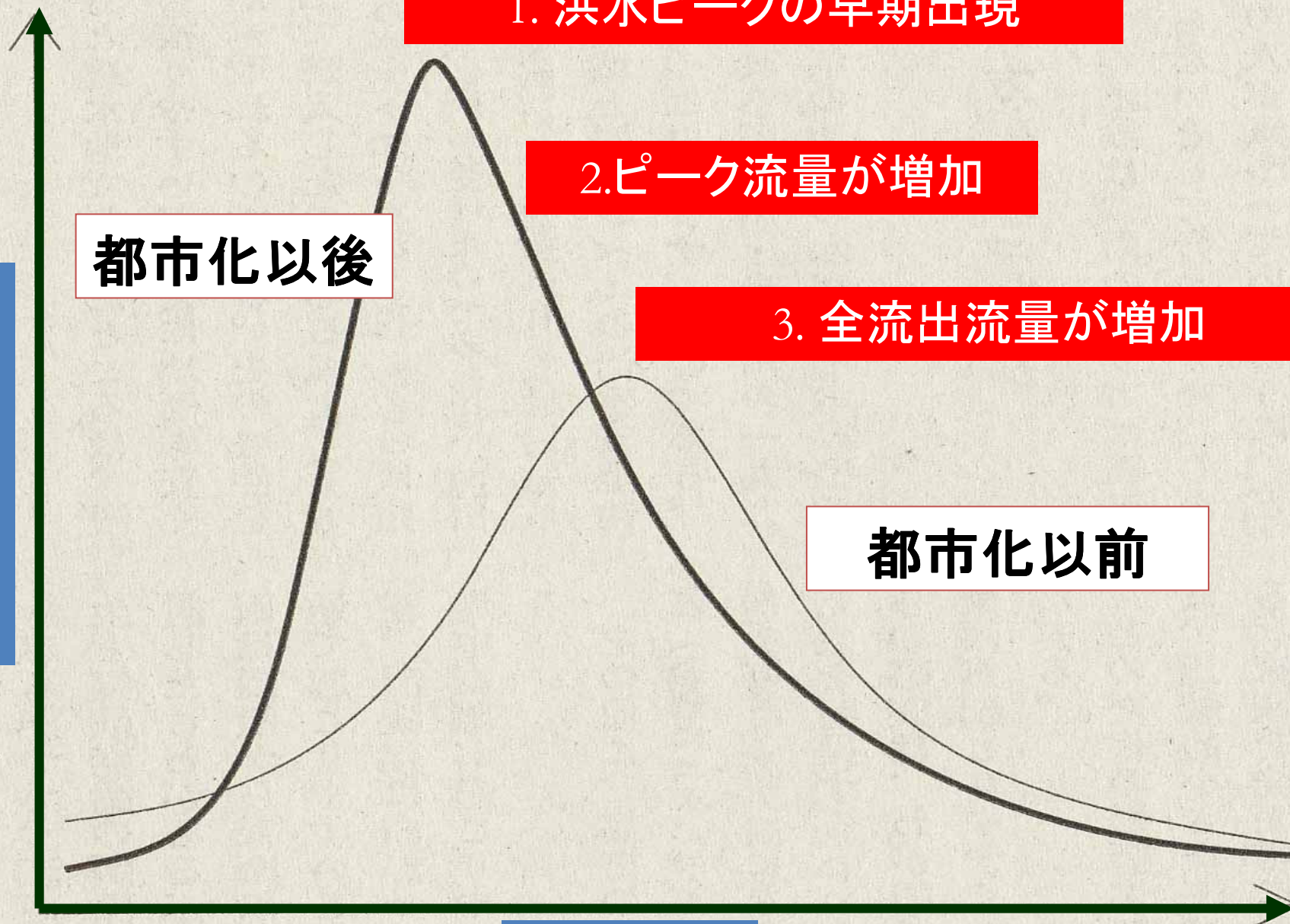
1. 洪水ピークの早期出現

2. ピーク流量が増加

3. 全流出流量が増加

都市化以前

時間





Toga Gawa 2008-07-28 14:32:21



最大流量: $30 \sim 40 \text{ m}^3/\text{s}$, 水深: 遊歩道上 1.3 m

2時40分から3時15分の出来事

災害に立ち向かう

- 自然と人間は知恵比べをしている。
- 自然は、人間社会の弱い部分を攻めてくる。
- したがって、どこが弱いかがわからないと、対応のしようがない。
- どこが弱いかを想像する能力が大切である。
(バーチャルな世界の中で、自分ならどうすると考え、行動するという訓練を行う)

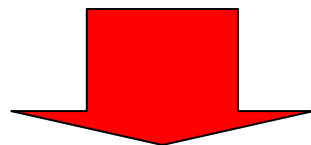
今後の目標

- 地域防災力を向上させる。
- いざというとき役立てるには、災害文化の形（日常の習慣）をとっておくのがよい。
- 自助努力（セルフ・エンパワメント）によって危機管理能力を向上させる。
- 共助努力（コミュニティ・エンパワメント）によって住んでいる地域の危機管理能力を向上させる。

家庭の危機管理マニュアルを作ってみよう

自分の家庭にとって危機とは何か？

まず、地震が起こったらどうなるかを想像する。そこから、マニュアルが生まれる。自治体の地域防災計画を参照する。



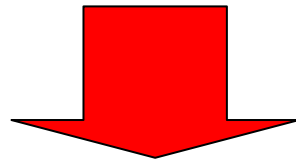
それができたら、つぎに家族の病気・入院、交通事故、転職・会社倒産、子供の受験失敗、就職活動失敗、海外渡航などの対応策を考える。

各種危機対応には共通のものがある

- それらへの対応には必ず共通のものがある。それを家族全員で確認する。
- 家族の協力が必要だから、各人の分担を相談して決める。
- 本や新聞を読んで気になる記事があったら“自分ならこうする”というように考える。
- もし可能なら自分以外の人はどう考えているかを訊ねる。

忘れていけない阪神・淡路大震災の教訓

地震の発生確率の大小を問題にするのではなく、起きた場合の被害の大きさを考えて対策を立てなければいけない。



自分が住む、あるいは企業活動する地域での最大の地震被害は、どの活断層地震で発生するのか。しかし、近い将来確実に起こる南海地震対策は必須である。

阪神・淡路大震災は 市民をどのように変えたか

- 市民力(自律意識と連帯意識)が確実に高まった。
- 市民力が高い被災者ほど、被災後の生活の適応度が高い。
- 市民力が高い被災者ほど、被災後の生活の復興度が高い。

市民性尺度：自律項目

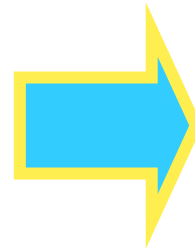
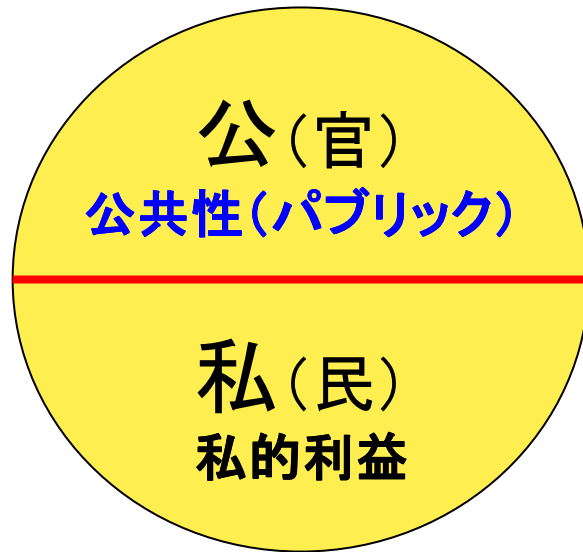
- しあわせなことが立て続けに起こると、この幸運に酔ってはいけないと、心を引き締める。
- たとえ欲しいものがあったても、他人からひんしゆくを買うような行いは、つつしむ方だ。
- 街を歩いていて不快な目にあったら、イライラせずに気持ちを抑えようとする方だ。
- 約束はできるだけ守るようにしている。
- 自分の欲求をかなえるときも、バランス感覚が大切だ。
- 身のまわりのことには、ある程度気を使う方だ。

市民性尺度：連帯項目

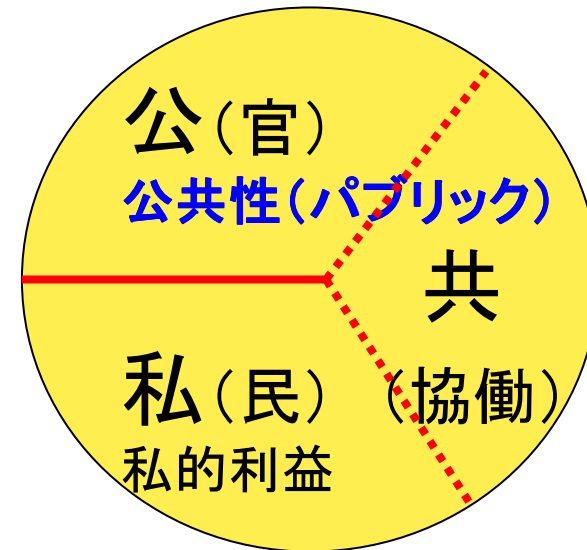
- わたしは、自分がしてほしくないことは、他人にもしない。
- 地域みんなが困っていることがある時、みんなが困っていることなら、みんなで考えることで解決の糸口が見えると思う。
- 自分の行いの結果、何かまずいことが起こったら、その責任は自分で負う方だ。
- 講演会や集まりに参加したとき、話し手に耳を傾けるのが礼儀だと思う。
- わたしは、用事があれば、近所の人にも、自分からきっかけを作って話しかける方だ。
- 他人の権利を侵さないように気をかける方だ。

市民が公共性を紡ぎだす

震災までの世の中



震災後の世の中

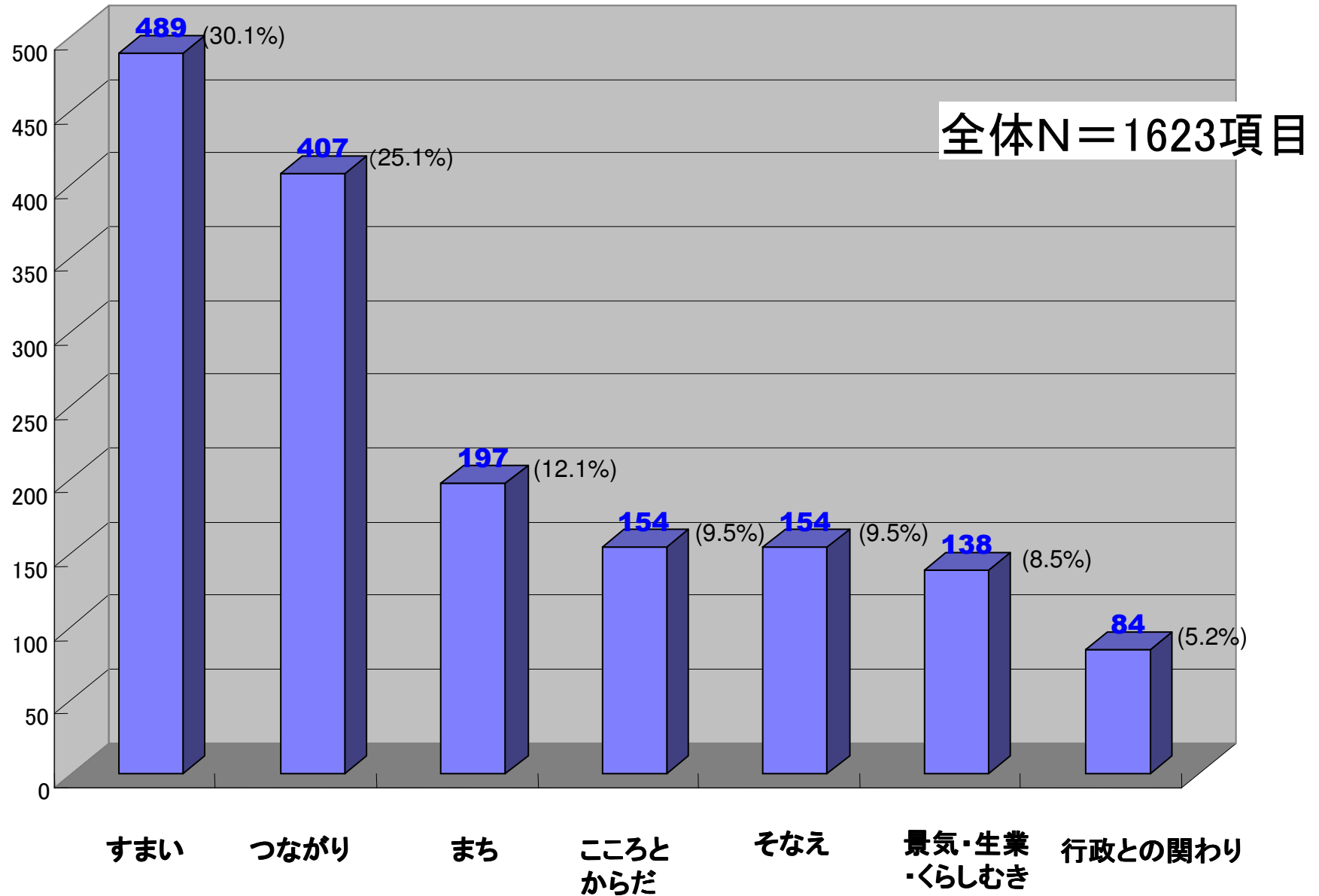


市民社会における「こころざし」

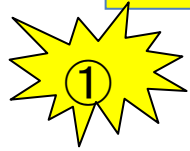
- J. J. ルソー

- 身を労するかわりに、金を出してみるがよい。やがて諸君の手には鉄鎖が返ってくるであろう。あの「財政(ファイナンス, finance)」という語は、もと奴隷の言葉であって、都市国家においては知られていなかった。本当に自由な国では、市民たちは万事自分の手で行い、何一つ金づくではすまさない。彼らは自分の義務を免れるために金を払うどころか、金を払ってもいいから自分の義務は自分で果たしたいと思うだろう(「代議制について」『社会契約論』(中公文庫), 1762, 124-125)

生活再建構造の分野別カード枚数



何が「市民力」を高めるのか？



地域の誇りを大事にする

住民が共通に大事なものを作り, 守る. たとえば,
石碑, まつり, いろいろな文化



日常からの近所つきあい

子供や高齢者にやさしいまち
近所で声をかけあう



地域を支えるしくみづくり

- 地域が自律できるしくみ
- 住民と自治体の協働の場づくり
- 住民と自治体の協働のしくみ

地域の見守り・助け合いの交流が生まれるための4つの条件

1. 日常的な交流（濃密な人間関係）
2. 助け合いの呼び水の制度や活動
3. 物理的・地理的に近い
4. 助け合いの仕掛け人

木原孝久(2000)『近隣助け合い活動ハンドブック』さわやか福祉財団

机上演習
機能演習
総合演習

③
ためす 演習
身についたかどうかを確かめる



まなぶ 学習
必要な情報, 知識, 技能を紹介する ①



ならう 練習
習熟度を上げるために反復して練習 ②



研修によって賢くなる基本構造

さらに、地域コミュニティ を活性化するための6つの条件

1. 日常的な交流(地縁:町内会などとNPO、趣味のクラブなどの集団との結びつき)
2. **コミュニティ組織の存在(防災コミュニティ、自主防災組織、まちづくり協議会、ふれあい福祉協議会など)**
3. 連携のための仕掛けづくり
4. **情報共有・連携のプラットフォームの構築と活用**
5. 地理的に近く居住し、適当な地域の大きさ(数千人以内)
6. 地域リーダーの存在と人材育成

国道229号線豊浜トンネル崩落事故

1996年2月10日発生、20名死亡、崩落岩塊(2.7万トン)

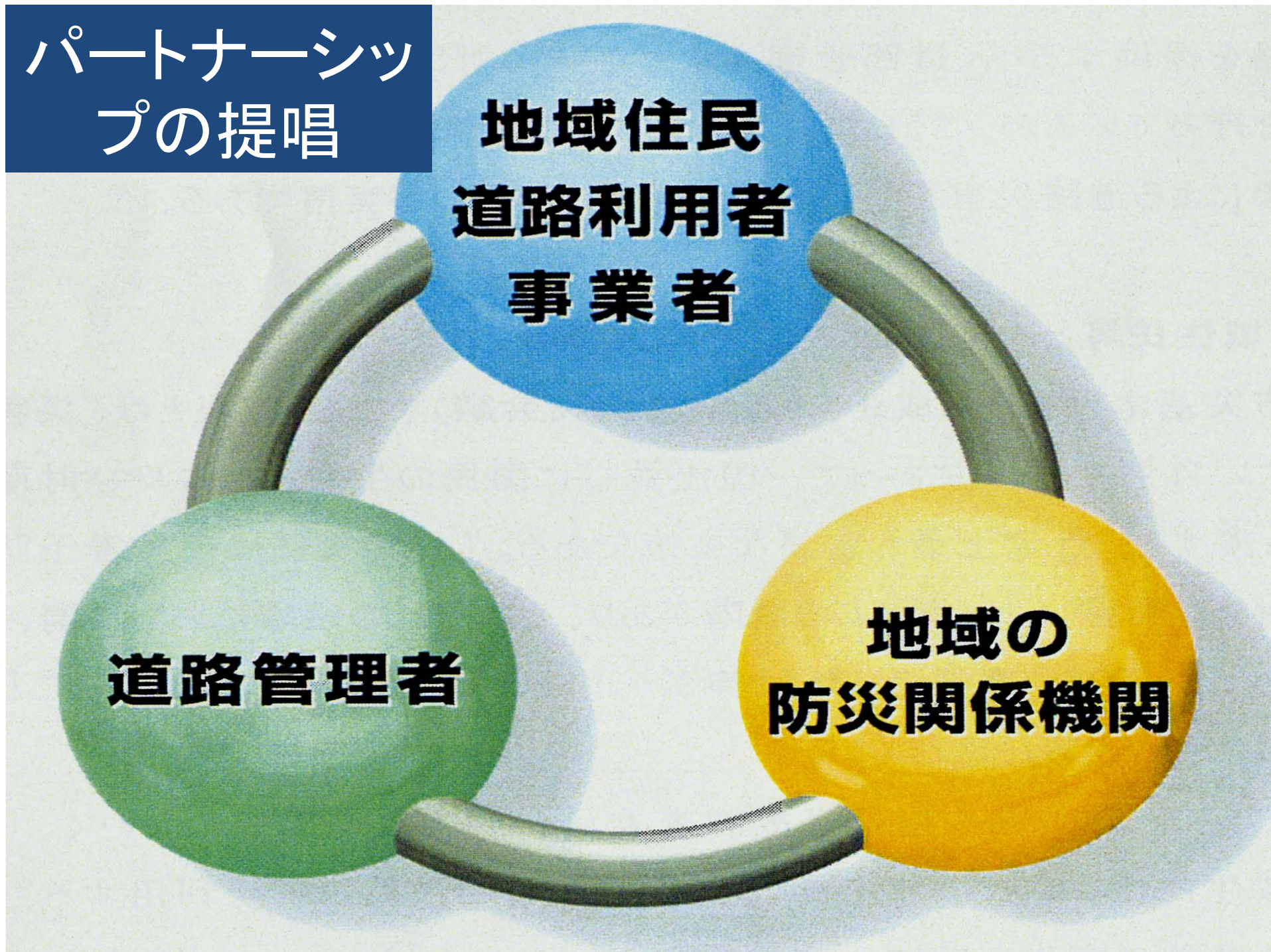


パートナーシップ
の提唱

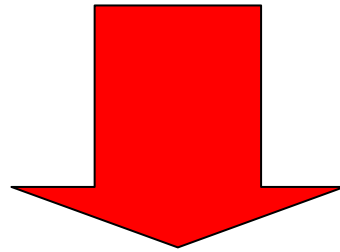
地域住民
道路利用者
事業者

道路管理者

地域の
防災関係機関

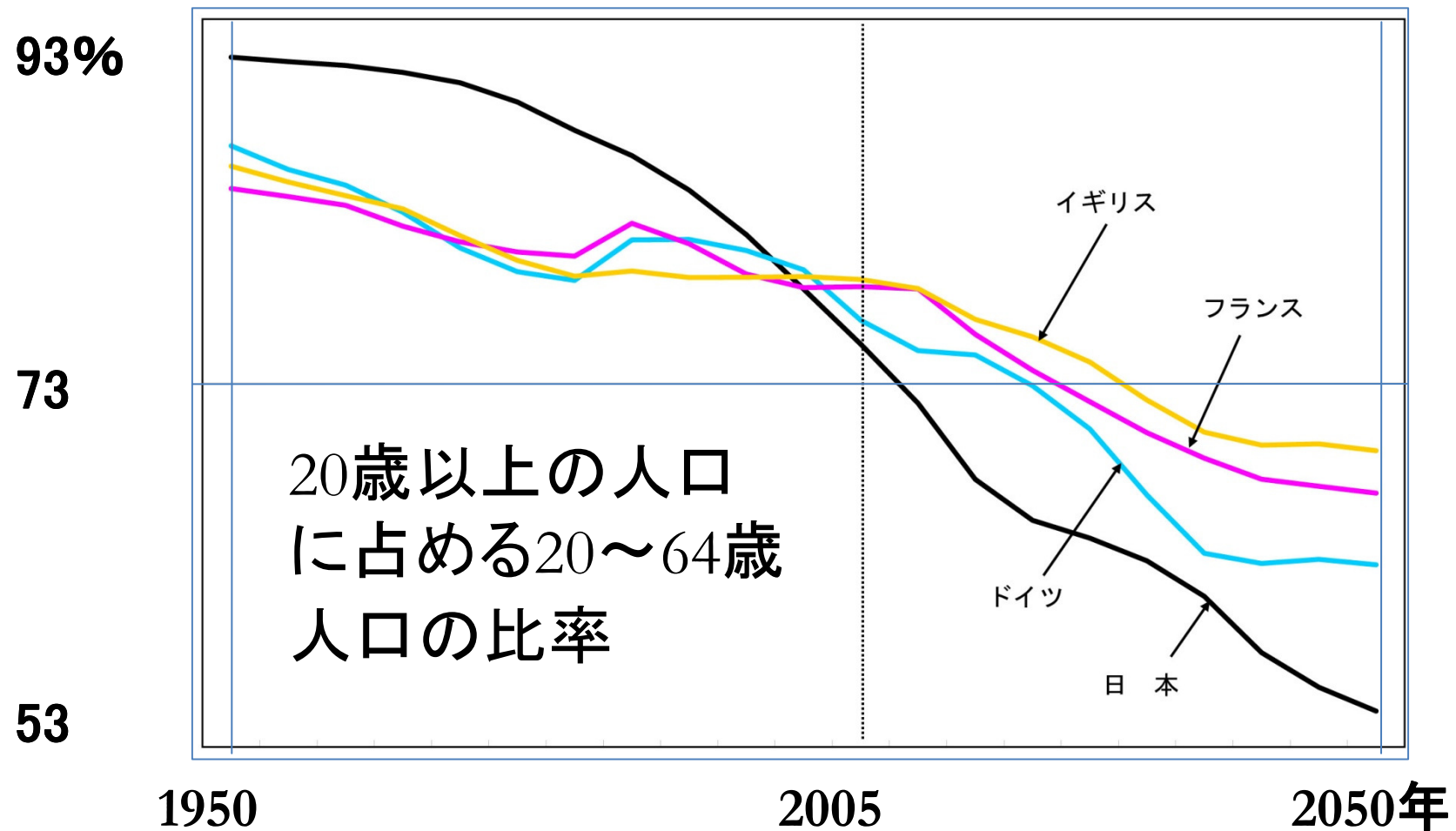


普段の生活レベルでの習慣化
まず、簡単なことから実行



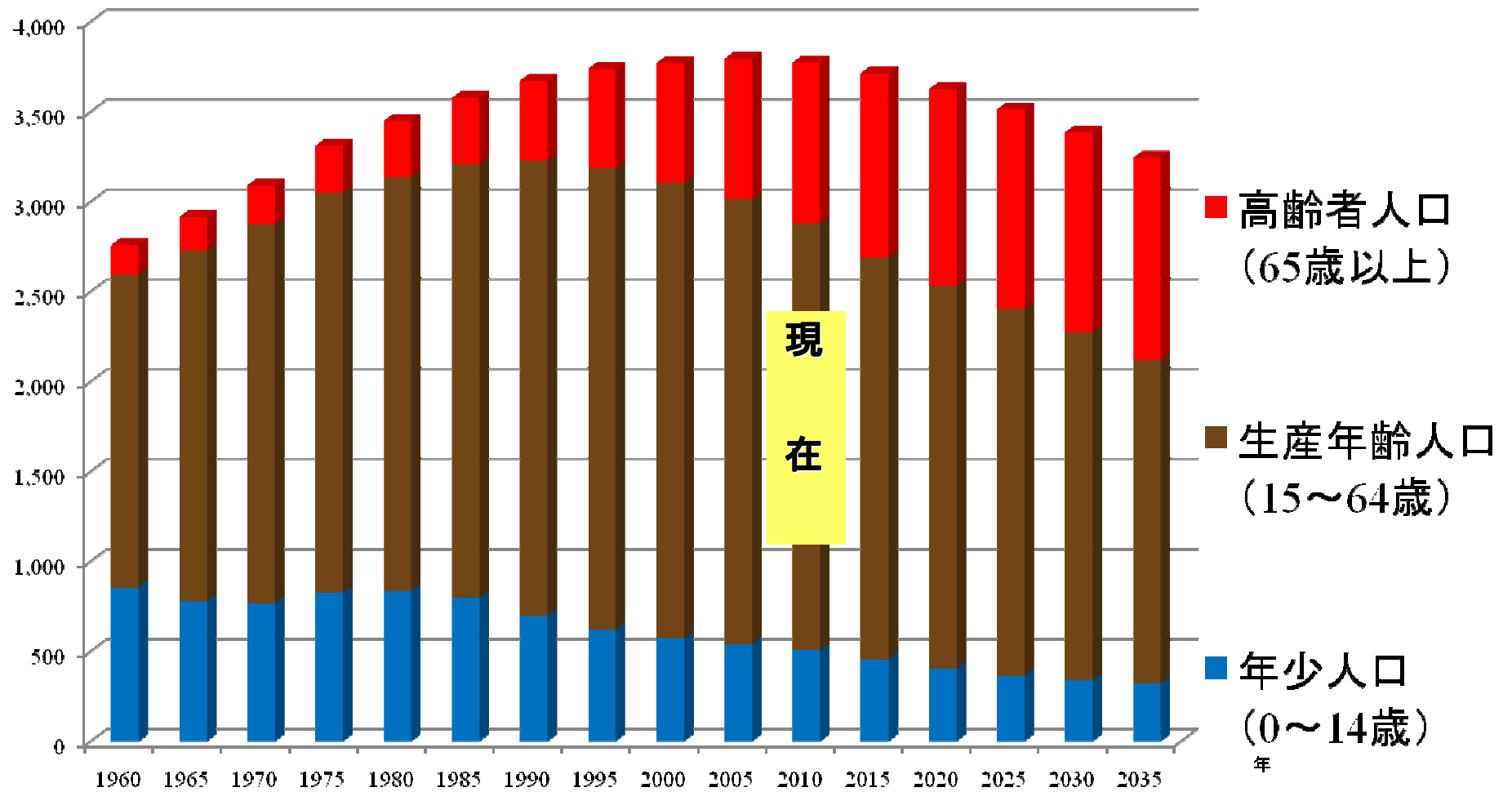
災害文化として継承
地域文化に発展

高齢化の進行による 深刻な社会の防災力の低下



静岡県推計人口

千人



防災・減災をデザインする

1. 想定外力までは防災対策

2008年都賀川の例：川は溢れていない。利用の知識に問題があった。安全の盲点がないかどうかをチェックする（例：小中学校の統廃合と移転、市町村役場と警察署、消防署の分散配置などは必ず問題になる）

2. 想定外の外力は減災対策

最悪シナリオに基づく長期減災戦略（例：淀川の暫定30年の河川整備計画、地球温暖化に適応した高潮対策の見直し）

災害・犯罪に強い率先市民になろう

- 地域を襲う災害や犯罪に関して理解を深める。
- **被害軽減力**を高める活動を強化する。
 - 人と人のつながりの大切さ
 - 連携・協働のやり方を磨く
 - 地域が抱える問題の解決に主体的に取り組む。
- **被害抑止力**を高める活動を始める。
 - 家を壊さない/けがをしない(地震を感じたとき、むやみに外に避難しない。)
 - 洪水の避難勧告発令時に被害を過小評価しない。